群馬用水

― 戦後農業と地域発展を支えた大規模灌漑施設

群馬用水は、利根川から取水し、赤城山南麓と榛名山東麓の広大な畑地を潤すために建設された大規模な灌漑用水路です。水源は矢木沢ダム・奈良俣ダムにあり、渋川市の赤榛分水工で赤城幹線と榛名幹線に分かれ、県央地域の農地を灌漑しています。

昭和戦後の食糧増産を背景に計画され、1969 年に幹線が完成しました。

1980 年以降は水道用水にも利用され、現在では前橋市・高崎市をはじめとする県央地域へ生活用水を供給する重要な水資源となっています。

42 群馬用水通水がもたらした変化

昭和43(1968)年

幹線水路の一部通水により、待ち望んだ水が地域へ流れ始めた時期の記録です。子持村では大規模農業化を目指す「ほ場改善事業」が進み、通水した農地には新しい農業への期待が広がっていました。当時、群馬用水は赤城・榛名・子持山麓の 3 市 4 町 11 村をうるおす、県内最大の農業用水でした。

群馬県行政文書『写真帳ぐんま(S39~48)』(A0122C00 16)